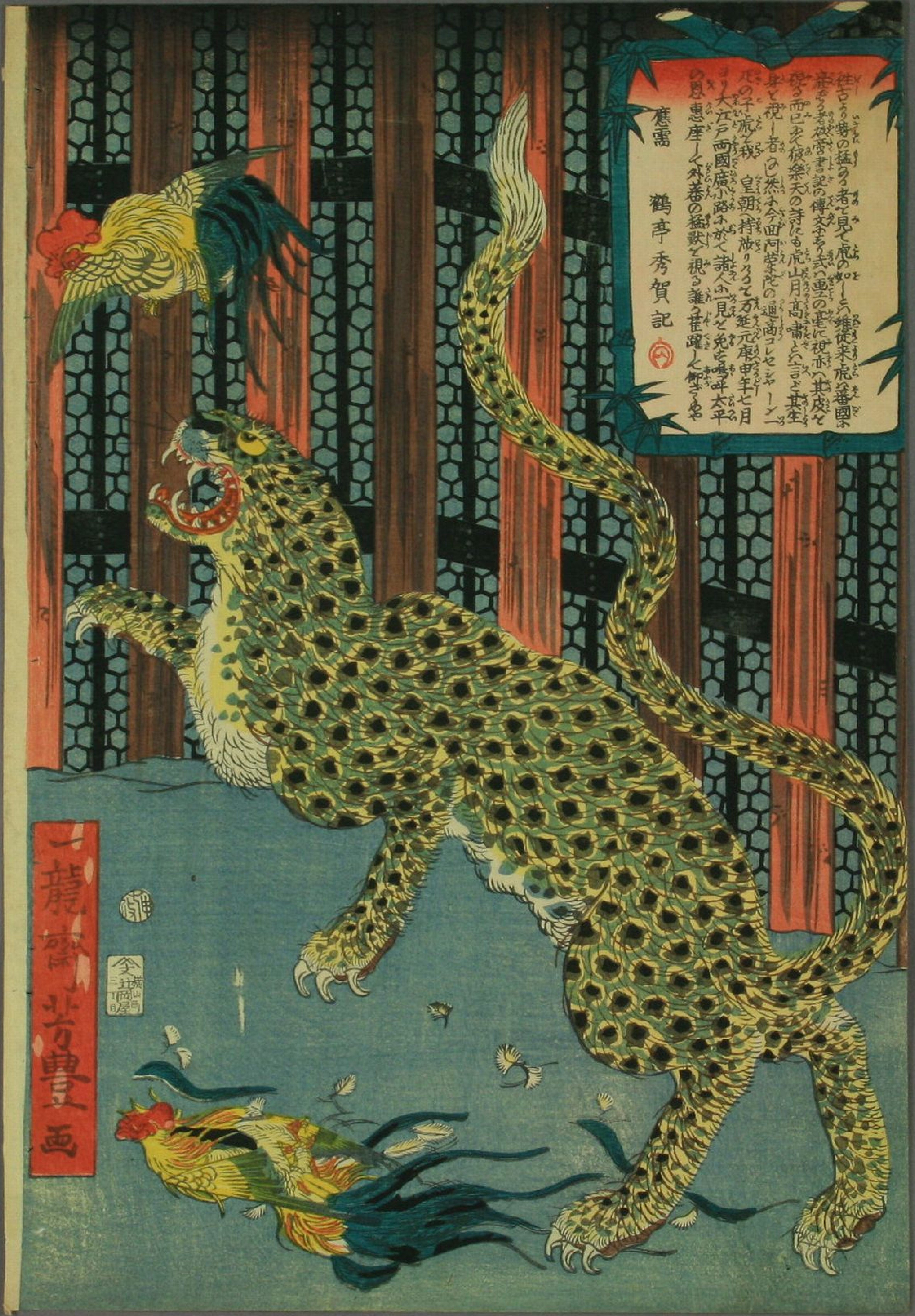

往古より勢の猛き者を見て虎の如しと云ふ雖従来虎ハ蕃國に産する者故書記の傳文ある式ハ画の上に視或ハ其皮を視る而已又彼楽天の詩にも虎山月高嘯と云ふ言ど其生身を視し者なし然るに今回阿蘭陀の通商コレセシヤ一ノ一ろ虎の子と虎を携へ　皇朝へ持渡りぬるて万延元庚申年七月より大江戸両國廣小路にかけて諸人に一見を免さる時太平の恩恵座しく外蕃の猛獣を視る誰か雀躍して歓ざらんや

應需　鶴亭秀賀記

一龍斎芳豊画